


# MITSUBISHI

三菱電機  空調管理システム

## MEリモコン PAR-F28ME

据付工事説明書

販売店・工事店さま用

この説明書は三菱電機  空調管理システム、直膨式マルチエアコン室内ユニットに接続しますMEリモコンの据付工事についてのみ記載しております。よくお読みのうえ、正しく据付けてください。なお空調機本体への配線、および空調機本体の据付工事に関しては、空調機本体の据付説明書をご覧ください。

### 1 安全のために必ず守ること

- 据付工事はこの「安全のために必ず守ること」をお読みのうえ、確実にこなして下さい。
- 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分説明しています。

<b>⚠警告</b>	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結び付く可能性があるもの
<b>⚠注意</b>	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋、家財などの損害に結びつくもの

- お読みになったあとは、室内ユニットに添付された取扱説明書などとともに、お使いになる方に必ず本書をお渡し下さい。
- お使いになる方は、取扱説明書などとともに、いつでも見られる所に保管し、移設・修理の時は工事される方に、又お使いになる方が変わる場合は、新しくお使いになる方にお渡し下さい。

#### ⚠警告

据付けは、販売店または専門業者に依頼する。  
お客様自身で据付工事をされ不備があると、感電、火災等の原因になります。

据付けは、十分に耐える所に確実に行う。  
強度が不足している場合は、本機の落下により、ケガの原因になります。

配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全の場合は、発熱、火災等の原因になります。

改造、修理は絶対しない。  
改造したり、修理に不備があると感電、火災等の原因になります。  
修理はお買上げの販売店にご相談ください。

据付工事は、この据付工事説明書に従い確実にこなす。  
据付けに不備があると、感電、火災等の原因になります。

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電機移設に関する技術基準」、「内線規定」、及び本説明書に従い施工する。  
電気回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

お客様自身で移設はしない。  
据付工事に不備があると感電、火災等の原因になります。お買上げの販売店または専門業者にご依頼下さい。

#### ⚠注意

可燃性ガスの漏れる恐れのある場所へ据付けない。  
万一ガスが漏れて本機の周囲に溜まると発火、爆発の原因になることがあります。

特殊環境には使用しない。  
油（機械油を含む）、蒸気、硫化ガスなどの多い場所で使用しますと性能を著しく低下させたり、部品が破損したりする場合があります。

病院、通信事業所などに据付けられる場合は、ノイズに対する備えを充分に行なう。  
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器等の影響による本機の誤動作や故障の原因になったり、本機側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音などの弊害の原因になることがあります。

配線は張力がかからないように配線工事をこなす。  
断線したり、発熱、火災の原因になります。

リモコンケーブル引き込み口を、パテで確実にシールする。  
露、水、ゴキブリ、虫等の侵入のため、感電、故障の原因となることがあります。

本機を据付ける付近の温度が40℃以上、0℃以下になる場所、または直射日光のあたる場所には据付けない。  
変形、故障の原因となることがあります。

AC100VやAC200Vは絶対に印加しない。リモコンへの印加電圧は最大で30Vです。破壊、発火、火災の原因となります。

浴室など大量の湯気が発生する所には据付けない。  
水のかかる場所、壁が結露するような場所は避けてください。感電、故障の原因になります。

酸性、アルカリ性の溶液、特殊なスプレー等頻繁に使用するところへは据付けない。  
感電、故障の原因になります。

配線は電流容量にあった規格品の電線を使用すること。  
漏電や発熱、火災の原因になることがあります。

濡れた手でボタンを操作しない。  
感電、故障の原因となることがあります。

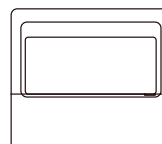
本機を水洗いしない。  
感電、故障の原因になることがあります。

ボタンを先のとがった物で押さない。  
火災、感電の原因となります。

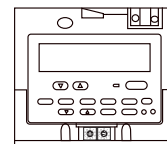
### 2 部品確認

箱の中には、この説明書の他に次の部品が入っていますのでご確認ください。

1. リモコン（カバー、本体） ..... 1
2. 十字穴付きナベネジ M4×30 ..... 2
3. 木ネジ M4.1×16（壁に直接据付ける時使用） ..... 2
4. 取扱説明書 ..... 1



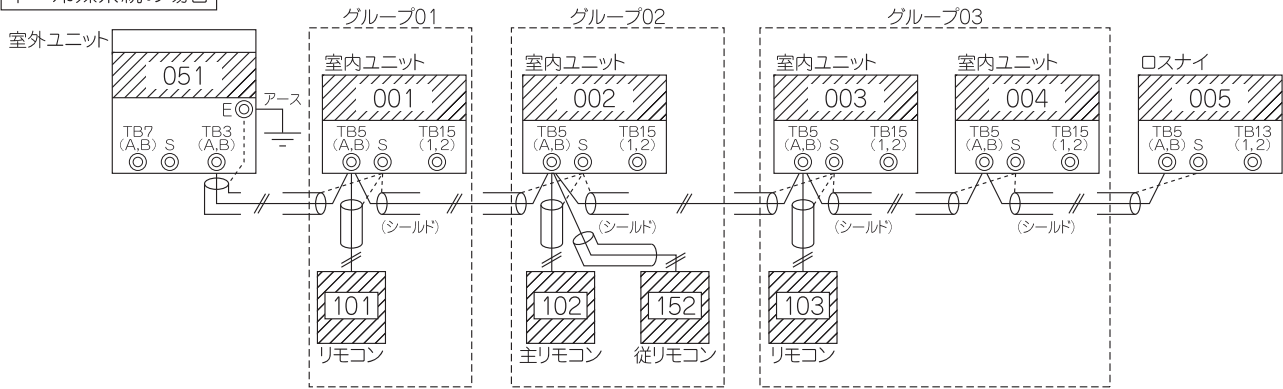
リモコンカバー



リモコン本体

### 3 伝送線配線

#### 1. 単一冷媒系統の場合



- ①リモコンからの配線
  - ・室内ユニットのTB5（室内外伝送線用端子台）へ接続します。
  - ・端子台には極性はありませぬ。  
リモコン端子台に示してあります記号のA,Bに接続します。
- ②グループ運転する場合
  - ・グループ運転する室内ユニットの親機のアドレスにリモコンのアドレスを合わせます。  
親機アドレスはグループ内の最小アドレス番号を示します。  
この親機アドレス番号+100にリモコンアドレスを設定します。
- ③各室内ユニットまたは室内ユニットで構成するグループにリモコンは、主リモコンと従リモコンの2台が接続できます。
  - ・接続は①と同様です。
  - ・この場合、主リモコンと従リモコンのアドレス設定を必ず行ってください。  
従リモコンの設定は、室内ユニットの親機アドレス+150となります。

**注意** ・リモコン同士での渡り配線は禁止です。リモコンの端子台には配線1本しか接続できません。  
・同一グループ内にMEリモコンとMAリモコンの併用接続はできません。

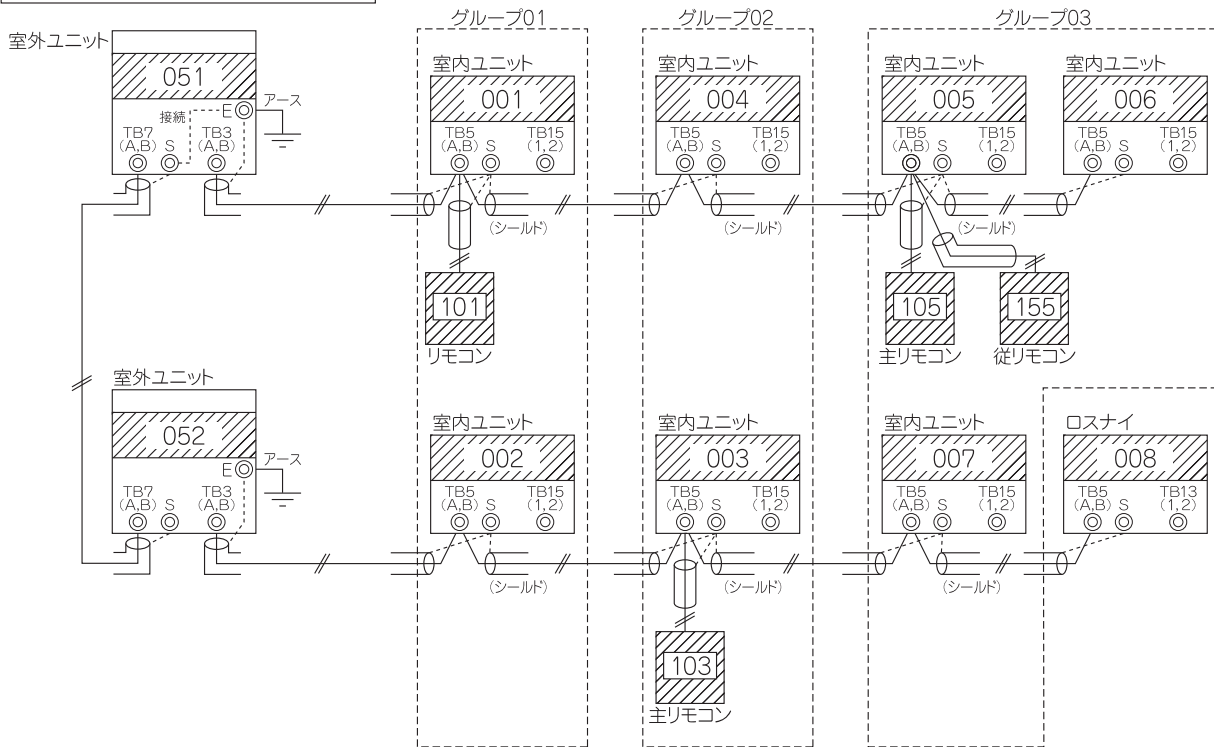


- ④ロスナイを連動させる場合は、リモコンで次の設定をしてください。（この場合の設定方法につきましては **⑥ グループ設定、連動設定** を参照ください。）
  - ・連動するグループ内の全ての室内ユニットと連動するロスナイを連動設定します。

**お願い** この場合、必ずグループ内全ての室内ユニットアドレスとロスナイアドレスを連動設定してください。設定しませんでしたらロスナイは運転しません。

- ⑤単一冷媒系統の場合の設定は、上記内容で終了です。

#### 2. 異冷媒系統でグループピングする場合



- ①リモコンからの配線（単一冷媒系統の場合と同じ）
- ②グループ運転する場合
  - ・グループ運転する室内ユニットの親機のアドレスにリモコンのアドレスを合わせます。  
親機アドレスはグループ内の最小アドレス番号を示します。  
この親機アドレス番号+100にリモコンアドレスを設定します。
- ③各室内ユニットまたは室内ユニットで構成するグループにリモコンは、主リモコンと従リモコンの2台が接続できます。（単一冷媒系統の場合と同じ）
- ④ロスナイを連動させる場合は、単一冷媒系統と同じ設定をしてください。

- ⑤異冷媒系統の場合グループ分け等の設定を各リモコンで行います。(詳細は(6 | グループ設定、連動設定)の項目を参照ください。)  
 但し、MELANSシステムコントローラが併用設置される場合、システムコントローラ側で、グループ設定・連動設定を行いますので、リモコンでの設定は不要です。

⑥異冷媒系統の場合の設定は、上記内容で終了です。

**お願い** ・異冷媒系統でグルーピングする場合、1台の室外ユニットのみ、制御基板上的給電切換コネクタ (CN41) を (CN40) に差し替えてください。  
 ・MEリモコンのリモコンケーブルは現地手配となります。  
 下記に示す仕様に相当する電線を用意してください。  
 電線仕様 (シールド線 CVVS、CPEVS、MVVS)  
 1.25mm<sup>2</sup>のケーブルは10mを超える所から延長用としてお使いください。  
 ○10m以内……0.3~0.75mm<sup>2</sup>の2芯ケーブル (MVVS)  
 ○10mを超える部分……1.25mm<sup>2</sup>の2芯ケーブル (CVVS、CPEVS)  
 リモコンの配線引き込みは最大1.25mm<sup>2</sup>の電線を通せます。ただし、作業上0.75mm<sup>2</sup>まで電線を推奨します。

## 4 据付方法

### 1. リモコン (スイッチボックス) の据付位置を決めてください。

ただし、下記の事項を必ず守ってください。

- 温度センサはリモコンと室内ユニットの両方に付いていますが、リモコンの温度センサを使用する場合、主リモコンに設定したリモコンにて室温を検知します。主リモコンは部屋の平均的な温度を検知できる場所で、直射日光やエアコンの吹出し空気が直接当たらないなど熱源の影響を受けない所に据付けてください。  
 (リモコンの主/従設定は(4 | 据付方法)の6を、温度センサの設定についてはフリープランシステム室内ユニットの据付説明書をご覧ください)
- スイッチボックス、壁どちらに据付ける場合でも右図に示すスペースを確保してください。  
 (ただし、スケジュールタイマー併用時についてはスケジュールタイマーの据付説明書を合わせてご覧ください。)

**お願い** リモコンセンサの付近に配線がないことを確認してください。  
 配線などある場合、リモコンにて正確な室温を検知できません。

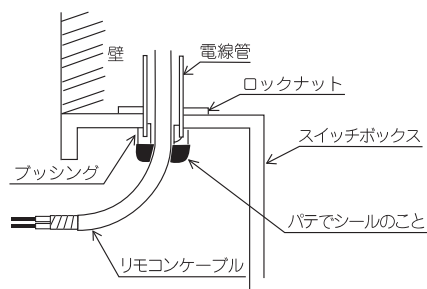
- 下記の部品は現地で調達してください。

- ・2個用スイッチボックス (JIS C8340)
- ・薄鋼電線管 (JIS C8305)
- ・ロックナット、ブッシング (JIS C8330)
- ・モール (JIS C8425)

### 2. 露、水滴、ゴキブリ、虫などの侵入防止のためリモコンケーブル引込口をパテで確実にシールしてください。

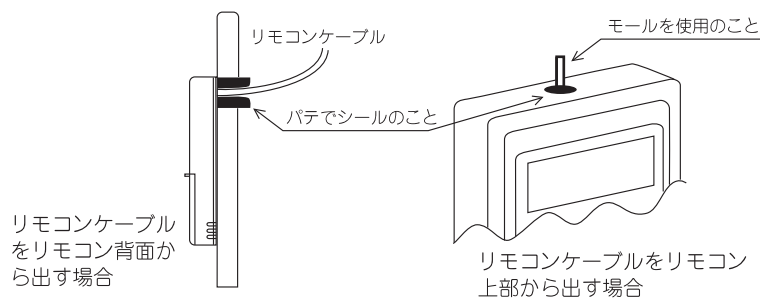
#### スイッチボックスを使用する場合

- ・スイッチボックスに据付けた場合はスイッチボックスと電線管の結合部をパテでシールしてください。



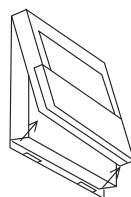
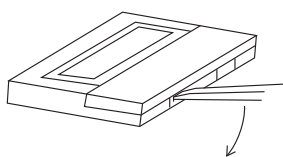
#### 壁に直接据付ける場合

- ・壁に穴を開けリモコンケーブルを通す場合 (リモコンケーブルをリモコン背面から出す場合) その穴をパテでシールしてください。
- ・上カバーの切り取った部分よりリモコンケーブルを通す場合は上カバーの切り取った部分を同様にシールしてください。
- ・リモコンケーブルを壁面で引回す場合はモールを使用してください。



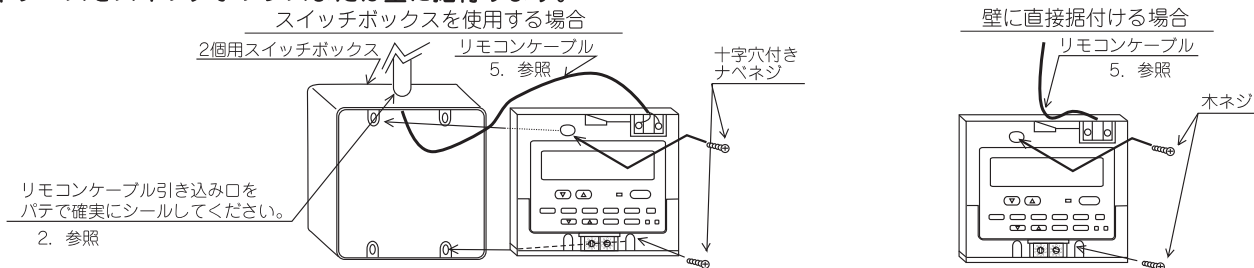
### 3. リモコン本体のカバーを外します。

- ・マイナスドライバーを爪部にはめ込み矢印で示す方向に動かします。



**注意** ドライバーを爪にはめ込んだ状態で回転させないでください。  
 爪がこわれてしまうことがあります

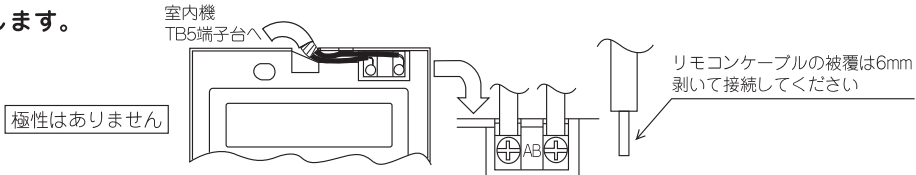
#### 4. 下ケースをスイッチボックスまたは壁に据付けます。



**注意** ネジを締めすぎないでください。下ケースの変形、割れの原因になります。

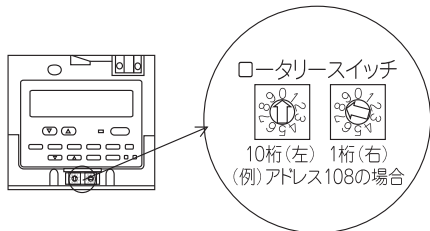
**お願い** ・据付け面は平らな所をお選びください。  
・スイッチボックスまたは壁への据付けは必ず2ヶ所以上を固定してください。  
・再度、壁へ取付けの際は、モリーアンカーなどを使用し、確実に固定してください。

#### 5. リモコンケーブルを本体の端子台に接続します。



**注意** ・リモコンケーブルのシールド末端はテープなどで確実に絶縁処理を行ってください。端子台、基板と接触し故障の原因になります。  
・リモコンの端子台への接続に圧着端子は使用しないでください。基板と接触しリモコン故障の原因となります。また、カバーと接触した場合はカバー破損の原因になります。  
・リモコンケーブルの切屑などがリモコン内部に入らないようにしてください。感電、故障の原因となることがあります。

#### 6. ロータリースイッチでリモコンのアドレスを設定します。



	アドレス設定範囲	設定方法
主リモコン	101~150	同一グループ内の最も若い室内ユニット親機アドレス+100に設定してください。
従リモコン	151~200	同一グループ内の最も若い室内ユニット親機アドレス+150に設定してください。

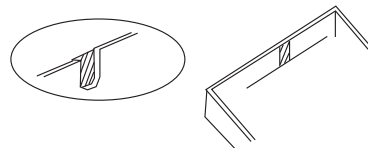
ロータリースイッチの設定	アドレスNo.
01~99	100を付加した数字で101~199
00	200

**注意** アドレス設定時は、精密ドライバー[(-)、2.0mm(w)]を使用し、印加荷重は19.6N未満で操作してください。上記以外の方法で操作しますとロータリースイッチがこわれてしまうことがあります。

**お知らせ** ・MEリモコンで設定できるアドレスNo.は101~200までです。100の位は“01~99”に設定時「1」に、“00”に設定時「2」に自動的に固定されます。  
・工場出荷時、ロータリースイッチは01に設定してあります。

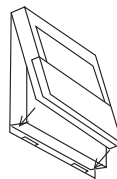
#### 7. 壁などに直接リモコンを据付ける場合の配線穴（露出配線の場合）

- ・カバーの内側薄肉部（斜線部）をナイフ・ニッパーなどで切り取ってください。
- ・端子台に接続したリモコンコードをこの部分から出します。



#### 8. 本体にカバーをはめ込みます。

上部爪（2ヶ所）を先に掛けて、右図のように本体にはめ込みます。

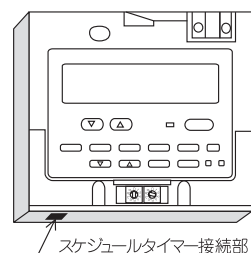


**注意** “パチッ”と音がするまで確実ににはめ込んでください。確実にハマっていない場合、落下の恐れがあります。

**お願い** ・操作部には保護シートが貼ってあります。ご使用の際は、保護シートをはがしてください。

## 5 別売部品の接続

- ・スケジュールタイマーを接続する場合、本体のコネクタに5芯ケーブルを接続してください。（5芯ケーブルはスケジュールタイマーに付属されています。）
- ・ケーブルを通すため、カバー内側薄肉部を切り取ってください。
- ・配線経路の都合上、スケジュールタイマーはリモコンの左側に据付けます。このためスケジュールタイマーを増設する予定がある場合、リモコンスペースを考慮して設置してください。  
なお詳しい据付方法についてはスケジュールタイマーの据付説明書をご覧ください。





## 6 グループ設定、連動設定

異冷媒系統間でグループの設定をする場合や、室内外手動アドレス上げを行う場合、この操作を行います。

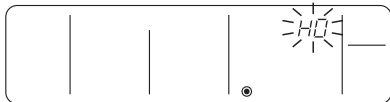
- (A) グループ設定…リモコンでコントロールする室内ユニットの登録、登録した内容の検索、登録抹消を行います。
- (B) 連動設定…室内ユニットと連動させるロスナイの登録、登録した内容の検索、登録抹消を行います。

### 操作手順

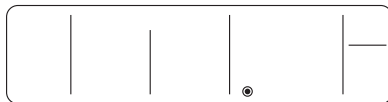
#### (1) アドレス登録

リモコンで運転操作する室内ユニットを登録します。

- ①電源投入時の「HO」点滅画面あるいは、「運転/停止」ボタンで停止画面にします。  
液晶画面は下図となり、どちらかの画面と異なれば次の操作ができません。



【「HO」点滅画面】

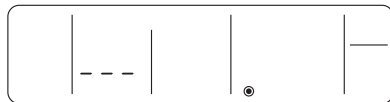


【停止画面】

#### (A) グループ設定の場合

- ②「グループ設定」画面を表示させます。

・Ⓐ (フィルター) とⒷ (ルーバー) ボタンを同時に2秒押ししますと下図の表示になります。



室内ユニットアドレス部

- ③アドレスNo.を合わせます。

・Ⓒ (設定温度) ボタンを押しますとアドレスNo.が前後しますので登録したい室内ユニットアドレスNo.に合わせます。

- ④表示したアドレスNo.の室内ユニットを登録します。

・Ⓓ (試運転) ボタンを押しますと表示されているアドレスNo.の室内ユニットが登録されます。  
・正常に登録されますと下図のようにユニットの種類を表示します。  
・指定した室内ユニットが存在しない場合、エラーの表示が出ますので、室内ユニットの存在を確認し、再度上記操作を行ってください。

正常終了の場合



ユニットの種類を表示します。  
(この場合室内ユニットを示します。)

エラーの場合

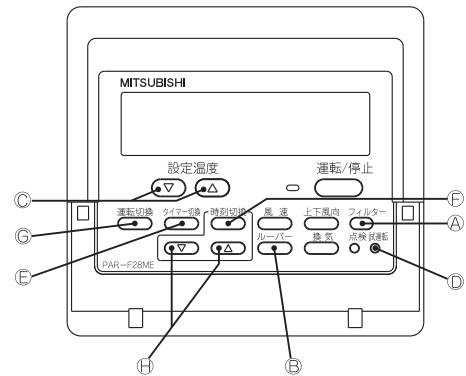
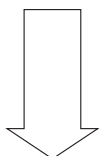


登録エラーとして「BB」を点滅します。  
(登録した室内ユニットが存在しない場合に発生します。)

- ⑤複数の室内ユニットを登録する場合、③と④の操作を繰り返して登録します。



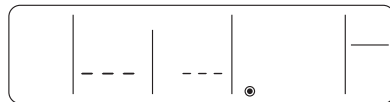
アドレス検索の場合  
(2) アドレス検索の項へ



#### (B) 連動設定の場合

- ⑥「連動設定」画面を表示させます。

・Ⓒ (運転切換) ボタンを押しますと下図の表示になります。  
もういちど押しすると②の「グループ設定画面」に戻ります。



「室内ユニットアドレス部」と「連動ユニットアドレス部」の表示が同時に出ます。

室内ユニット アドレス部  
連動ユニット アドレス部



アドレス検索の場合  
(2) アドレス検索の項へ

- ⑦室内ユニットアドレスNo.とそれと連動するロスナイのアドレスNo.を表示させます。

・Ⓒ (設定温度) ボタンを押しますと「室内ユニットアドレスNo.」が前後しますので連動させたい室内ユニットのアドレスNo.に合わせます。  
・Ⓓ (時刻切換) ボタンを押しますと「連動ユニットアドレスNo.」が前後しますので登録したいロスナイのアドレスNo.に合わせます。



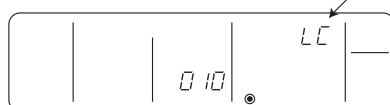
- ⑧ロスナイを室内ユニットに連動させるための登録を行います。

・Ⓓ (試運転) ボタンを押しますと下図のような表示になり「室内ユニットアドレス部」で示した室内ユニットと「連動ユニットアドレス部」で示しているロスナイとが連動されます。  
・上記内容は「室内ユニットアドレス部」にロスナイアドレスを、「連動ユニットアドレス部」に室内ユニットのアドレスを表示させても同様に登録できます。

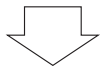


登録が正常終了しますと、左図のように交互に表示します。  
登録エラーの場合「BB」表示が点滅します。(ユニットが存在しないことを示します。)

↓(交互に表示) ↑



**お願い** ・グループ内全ての室内ユニットをロスナイと連動設定してください。設定しませんでしたと、ロスナイは運転しません。



### (C) 通常の状態に戻す場合

グループ設定、あるいは連動設定での各種操作が終了した場合、下記操作により、通常の状態に戻します。

⑩A (フィルター) とB (ルーバー) ボタンを同時に2秒押しますと①の状態に戻ります。

### (2) アドレス検索

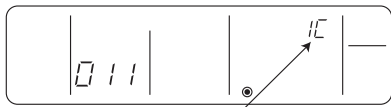
リモコンに登録してある室内ユニットのアドレスNo.を表示します。①、②の操作を行います。

#### (A) グループ設定情報検索の場合

⑪「グループ設定」画面を表示させます。

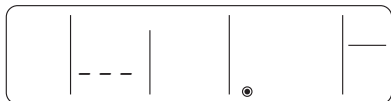
・E (タイマー切替) ボタンを押すたびに登録されている室内ユニットのアドレスNo.とユニットの種類を表示します。

登録あり



ユニットの種類を表示します。  
(この場合室内ユニットを示します。)

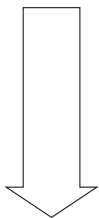
登録なし



・登録が1つの場合、何度押ししても1つのアドレスNo.を表示します。

・登録が複数ある場合 (例「011」、「012」、「013」)

E (タイマー切替) ボタンを押すたびに011→012→013の順に表示します。



アドレス抹消の場合  
(3) アドレス抹消の項へ

通常の状態に戻す場合  
⑩の操作を行います。

### (3) アドレス抹消

グループ設定情報の抹消操作では、リモコンに登録されている室内ユニットを抹消します。

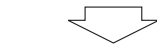
また、連動設定情報の抹消操作では、各ユニット間の連動関係を抹消します。

どちらの抹消操作でも (2) のアドレス検索処理を行い、抹消したいユニットを表示させた状態でを行います。

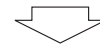
⑮登録されている室内ユニットあるいは、ユニット間の連動関係を抹消します。

・E (時刻切替) ボタンを2回押しと、表示していますアドレスの室内ユニットあるいは、ユニット間の連動関係が抹消します。抹消されますと下図のような表示になります。

⑨上記⑦、⑧を繰り返し、グループ内全ての室内ユニットとロスナイを連動登録します。



通常の状態に戻す場合  
⑩の操作を行います。



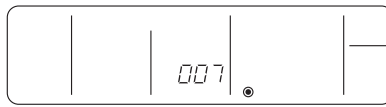
アドレス検索の場合  
(2) アドレス検索の項へ

#### (B) 連動設定情報検索の場合

⑥の操作を行った後、以下のようになります。

⑫検索したい室内ユニットのアドレスNo.を表示させます。

・H (▼) (▲) (時刻切替) ボタンを押しますと連動ユニットアドレス部が前後しますので検索したい室内ユニットのアドレスNo.に合わせます。



・上記内容は連動ユニットアドレス部にロスナイアドレスを表示させても同様に検索できます。

⑬⑭で連動されているロスナイアドレスNo.を表示。

・E (タイマー切替) ボタンを押すと連動されているロスナイのアドレスNo.と室内ユニットのアドレスNo.を交互に表示します。



登録されている  
ユニットのアドレス

↓(交互に表示) ↑



⑭登録されている別のユニットのアドレスNo.を表示。

・⑬に続いてもう一度E (タイマー切替) ボタンを押すと、登録されている別のユニットのアドレスNo.が表示されます。  
(表示の方法は⑬と同じです。)



登録されている別の  
ユニットのアドレス

↓(交互に表示) ↑



アドレス抹消の場合  
(3) アドレス抹消の項へ

(A) グループ設定情報抹消の場合

正常終了の場合



室温表示部に「--」を表示します。

・伝送上異常がある場合、登録は抹消されず下図のような表示になります。

この場合上記作業をもう一度行ってください。

エラーの場合



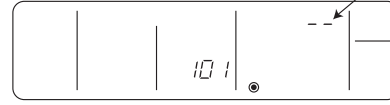
室温表示部に「88」を表示します。

通常の状態に戻す場合⑩の操作を行います。

(B) 連動設定情報抹消の場合



↓(交互に表示) ↑



抹消が正常に終了しますと、ユニットの種類が「--」になります。抹消エラーの場合、ユニットの種類表示部に「88」を表示します。この場合上記作業をもう一度行ってください。

(4) 任意のリモコンによる他のグループの (A) グループ設定、(B) 連動設定

・任意のリモコンで他のグループの (A) グループ設定、(B) 連動設定を行うことができます。操作方法は (6) グループ設定、連動設定 の (B) 連動設定の場合をご覧ください。アドレスNo.は下記のように設定してください。

- ・ (A) グループ設定を行う場合
  - 連動ユニットアドレス部…リモコンのアドレスNo.
  - 室内ユニットアドレス部…リモコンで操作する室内ユニットのアドレスNo.
- ・ (B) 連動設定を行う場合
  - 連動ユニットアドレス部…ロスナイのアドレスNo.
  - 室内ユニットアドレス部…ロスナイと連動する室内ユニットのアドレスNo.

7 リモコンの機能選択

●リモコン機能選択モードでは4種類の機能を設定変更できます。必要に応じ、設定変更をしてください。

- (A) 自動モードスキップ機能
 

自動モードのある冷暖同時空調機に接続されている場合、自動モードを選択不可にすることができます。
- (B) 運転モード表示選択モード (自動モード時の冷房/暖房表示選択)
 

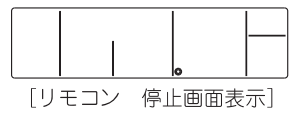
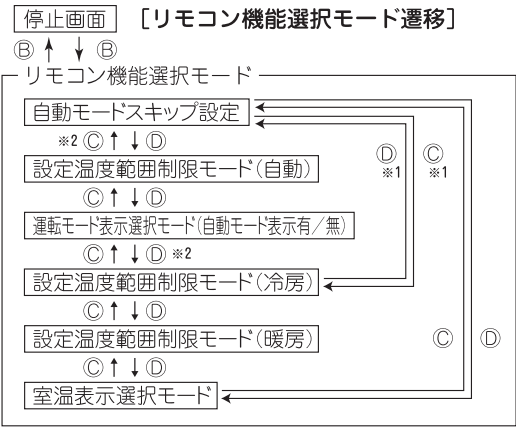
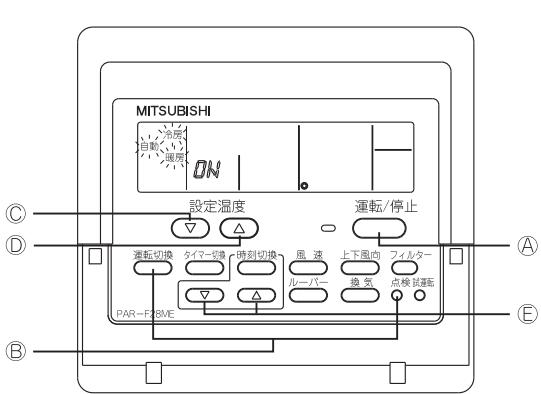
リモコンにて運転モードの自動モードを設定した場合、室内ユニットが室温から判断し、自動的に冷房運転あるいは、暖房運転を実施します。この場合、リモコンには [自動] [冷房] あるいは、[自動] [暖房] を表示しますが、[冷房]、[暖房] を表示せず、[自動] のみの表示とすることができます。
- (C) 室温表示選択モード (室温表示/非表示選択)
 

通常リモコンには、吸込温度を表示しますが、表示させないよう設定できます。
- (D) 設定温度範囲制限モード
 

通常、標準空調機の設定温度調節範囲は冷房、ドライ時19℃~30℃、暖房時17℃~28℃、自動時19℃~28℃の範囲で温度設定できますが、この調節範囲の下限/上限温度を制限することができます。冷房、ドライ時は通常より高め、暖房時は低めの設定にしておけば、過度の冷房、暖房運転を防ぎ、手軽に省エネ対策ができます。

⚠ 注意 ●自動モードがある冷暖同時空調機にて、省エネ運転を目的として設定温度範囲制限を行う場合は、自動モードスキップ設定にてスキップ設定を選択してください。自動モードを使用した場合、省エネ運転にならない場合があります。

●自動モードのない空調機に本機が接続されている場合、自動モードスキップ設定モード、設定温度範囲制限モード(自動)、運転モード表示選択モードでの設定は無効となります。冷房・ドライモードでの下限温度、暖房モードでの上限温度のみを変更した場合、[温度制限] を点灯表示します。



[リモコン 停止画面表示]

- ③: [点検] と [運転切換] ボタンを同時に2秒押し
- ④: 設定温度 [▽] ボタン
- ⑤: 設定温度 [△] ボタン

## 操作手順

- リモコンの④運転/停止ボタンで空調機を停止の状態にします。リモコンの表示は左記、停止画面表示になります。
- ②(点検)と③(運転切換)ボタン③を同時に2秒押ししますと、リモコン機能選択モードに移行し、「運転モード表示選択モード」画面が表示されます。その他の3種類のモードには設定温度(▽)ボタン⑤、あるいは(△)ボタン⑥を操作すると移行できますので、機能を変更したいモードを表示させてください。

### 自動モードスキップ設定 (自動モードをスキップさせたいとき)

本設定は自動モードのある冷暖同時空調機に接続されている場合のみ有効です。画面に「自動」が点滅表示し「ON」あるいは「OFF」が点灯表示します。時刻切換(△)(あるいは時刻切換(▽)⑤)ボタン⑥を押す毎に、「ON」、「OFF」表示が切替わります。



- 「ON」を選択した場合は、運転モード切換え操作により自動モードを選択することができます。
- 「OFF」を選択した場合は、運転モード切換え操作により自動モードを選択することができず、自動運転ができません。(運転モード切換え操作時、自動モードはスキップされます。)

### 運転モード表示選択モード (自動モード表示を変更したいとき)

- 自動モードのない空調機に本機が接続されている場合は設定無効となります。
- 画面に「自動冷房/暖房」が点滅表示し、「ON」あるいは「OFF」が点灯表示します。この状態で時刻切換(△)(あるいは時刻切換(▽)⑤)ボタン⑥を押す毎に「ON」、「OFF」表示が切替わります。



- 「ON」を選択した場合は、自動モード運転時、「自動冷房」、「自動暖房」のどちらかが表示されます。
- 「OFF」を選択した場合は、自動モード運転時、「自動」のみ表示されます。

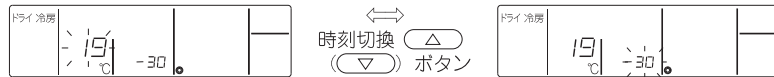
### 設定温度範囲制限モード (設定温度調節範囲を変更したいとき)

#### 1) 冷房/ドライモード時の温度選択

画面に冷房/ドライが点灯表示します。冷房(ドライ)モード時での設定温度調節範囲が表示されます。

[下限温度]: 設定温度表示部、[上限温度]: 時刻表示部

(時刻切換)ボタン⑥押しにより下限温度設定、上限温度設定を選択します。選択時、温度時は点滅表示になります。



[冷房/ドライモード時での設定温度調節範囲が19℃~30℃、下限温度設定中の場合(左図)]

時刻切換(△)あるいは(▽)ボタン⑤を押すごとに温度値がアップ、ダウンしますので、希望の設定温度調節範囲を設定します。

[下限温度 調節範囲]: 19℃※1↔30℃(表示している上限温度まで調節可能です)

[上限温度 調節範囲]: 30℃↔19℃※1(表示している下限温度まで調節可能です) ※1: 中温室内ユニットの場合、最下限温度は14℃になります。

#### 2) 暖房モード時の温度選択

画面に暖房が点灯表示します。暖房モード時での設定温度調節範囲が表示されます。

冷房/ドライモード温度選択と同様に(時刻切換)ボタン、時刻切換(△)(▽)操作により設定温度調節範囲を設定します。

[下限温度 調節範囲]: 17℃↔28℃(表示している上限温度まで調節可能です)

[上限温度 調節範囲]: 28℃↔17℃(表示している下限温度まで調節可能です)

#### 3) 自動モード時の温度選択

自動モードのない空調機に本機が接続されている場合は設定無効となります。

画面に自動が点灯表示します。自動モード時での設定温度調節範囲が表示されます。

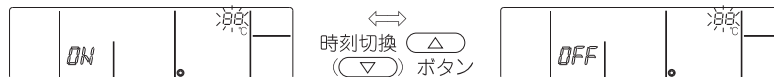
冷房/ドライモード温度選択と同様に(時刻切換)ボタン、時刻切換(△)(▽)操作により設定温度調節範囲を設定します。

[下限温度 調節範囲]: 19℃※2↔28℃(表示している上限温度まで調節可能です)

[上限温度 調節範囲]: 28℃↔19℃※2(表示している下限温度まで調節可能です) ※2: 中温室内ユニットの場合、最下限温度は17℃になります。

### 室温表示選択モード (室温表示有無を変更したいとき)

- 画面の室温表示部に「88℃」が点滅表示し、「ON」あるいは「OFF」が点灯表示します。この状態で時刻切換(△)(あるいは時刻切換(▽)⑤)ボタン⑥を押す毎に「ON」、「OFF」表示が切替わります。



- 「ON」を選択した場合は、運転画面で常に室温が表示されます。
- 「OFF」を選択した場合は、運転画面で室温が表示されません。

## 8 試運転

- 試運転を行なう前に必ず室内ユニットの据付工事説明書の「試運転」項目をご覧ください。
- 「試運転」ボタンを3秒以内に2回押しすると、試運転が行なえます。
- 「運転/停止」ボタンの操作により試運転は停止します。
- 試運転によって異常が発生した場合については室内ユニットの据付工事説明書の「試運転」項目をご覧ください。

